

Resilience: 困難を乗り越える力

レジリエンス マップ

「らしさ」を育て「つまずき」を乗り越えさせる

レジリエンスは意図的・計画的に育てる

子どもは
つまずきながら成長します。

思春期: **恋愛や進学**などでのつまずき **思春期らしさを理解する**

児童期: **勉強**でのつまずき **子どもらしさを発揮させる**

幼児期: **集団**でのつまずき **幼児らしさを使い切らせる**

(乳児期: 絶対につまずかせない) **赤ちゃんらしさを大切にする**

親の役目は

- ① 挑戦させる!
- ② 見守る!
- ③ 励ます!

失敗し
たってい
いから!



1年生になったら10のうちの1つくらいは自分で決めさせる。

2年生で2つ
3年生で3つ...



PHPカセットテープ集『向山型教え方教室』第1集より

「つまずき」と「逆境体験」は別です。
0-18歳期の「逆境体験」は成人後に
様々な不幸をもたらすこと
がわかっています。
(Anda et al., 2006, Bellis et al.,
2017, Hughes et al., 2017)

成人

思春期らしさを理解する

子どもらしさを発揮させる

幼児らしさを使い切らせる

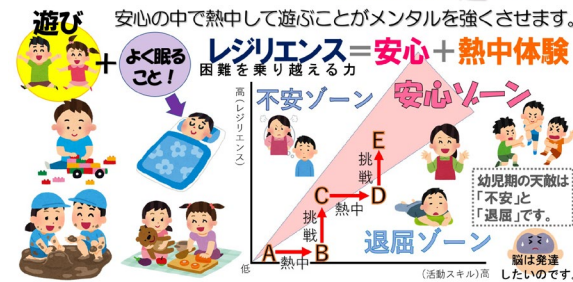
赤ちゃんらしさを大切にする



ACE (Adverse Childhood Experiences) のピラミッド

【逆境体験】①親や家族からの身体的虐待、②精神的虐待、③性的虐待、④ネグレクト、⑤精神的ネグレクト、⑥DVの目撃(母親の被害)、⑦同居家族の精神疾患、⑧同居家族の犯罪、⑨同居家族の薬物やアルコール依存、⑩両親の離婚や別居

【幼児期のキーワード①】めいっばい遊ぶ!



【幼児期のキーワード②】様々な遊び・体験



愛着形成は何か何でも重要です。

【乳児期】のキーワード **愛着形成**

かまって欲しかった時にかまってあげること

「かまって欲しい時」は3つ! **成功体験**

- ① 飛出した時(微笑む・声を出す・泣く)
- ② 待っている時(見て!・いるかなあ・来るかなあ)
- ③ 接近してきた時(後を追う・探す・抱き付く)

発信能力(泣く) → 確認能力(待つ) → 接近能力(追う)

「泣く・待つ・追う」などの能力を使う。タミグをみて、言葉をかけながら対応。(やっほー!) 成功体験となる。NG × 無視する NG × 先回りする

世代別発達課題(LIFE SHIFT 100) これらは「順序」であり、クリアすべき「課題」です。

win three win three

5. 思春期 「これが自分」というものを見つける

4. 児童期 **自信**を身につけ、集団での居場所をつくる

3. 幼児(後期) **幼児らしさ** 集団での遊びで自発性・積極性を発揮する

2. 幼児(前期) **幼児らしさ** 感情のコントロール能力を身につける

1. 乳児期 **愛着形成**に成功して人生の土台をつくる

反対に「PCE(子ども時代のポジティブな体験)」は成長後もレジリエンス(困難を乗り越える力)を保障することがわかっています。

【PCEの7項目】(Positive Childhood Experiences and Adult Mental Health)

1. 家族と「自分の気持ち」についての会話ができた
2. 困難な時に家族が自分のそばにいてくれた
3. 地域のイベントに参加して楽しんだ
4. 中学・高校で所属意識を感じられた
5. 友達から助けもらった
6. 親以外に少なくともの二人以上の大人が自分を理解してくれた
7. 自宅が安心安全な居場所になっていた



【学校での授業の本質】

1. 学び方を身につける授業
2. 楽しい授業
3. 将来役立つことが実感できる授業

(東京大学社会科学研究所・ベネッセ「子どもの生活と学びに関する親子調査2021」)

【望ましい学校風土】(和久田学「JaScJ」)

1. 一人一人の違いを大事にしている
2. 友達との活動が楽しい
3. 先生との関係がいい
4. 自信を持たせてくれる
5. いじめなどを注意してくれる

社会は変化しているんだよ。win-win-win と well-being が大切

昔 自分のため、学歴のため 将来困らないため

今 社会で役立ちたい! 困っている人を助けたい! 自分にしかできないことをしたい!

200年前 現代

身分制社会 → 学歴社会 → 多様性社会